

平成 26 年度「とちぎ農業・農村フォトコンテスト」 の審査講評と入賞作品

本年度で第 4 回目を迎えました「とちぎ農業・農村フォトコンテスト」について、十勝の魅力为全国に発信し、グリーンツーリズムの展開、農畜産物などの十勝ブランドイメージの向上、道東自動車道開通を契機とした交流人口の増加など、管内の農業と関連産業の振興に資することを目的に、「新たな驚きや感動を受ける十勝の農村景観」と「農業王国十勝の人々の姿や表情」をテーマとして、8 月 1 日から 10 月 31 日まで作品を募集しましたところ、昨年実績以上の 113 名 266 点（十勝の農村景観部門 70 名 177 点、農業王国十勝の人部門 43 名 89 点）の応募をいただきました。十勝管内中心に道内から多数のご応募をいただき、心よりお礼申し上げます。

残念なことに応募作品のうち撮影時期が規定外の 13 点が失格となりました。応募に際しては撮影時期など募集要領の記載事項に十分にご注意いただきたいと思います。

さて、審査はテーマに適合し人を惹きつける魅力のある作品を基準に選考致しました。応募作品の撮影場所は、広尾町と本別町を除く十勝管内 17 市町村を網羅し、芽室町＞帯広市＞音更町＞幕別町＞更別村＞中札内村の順に多い結果となりました。撮影月では、1 年間通じてすべての月に亘りましたが、9 月＞10 月＞7 月＞8 月＞5 月＞4 月の順に多く、昨年同様に冬とその前後の季節の作品は少ない傾向でした。

本年は昨年度の反省から 2 つのテーマが応募者に伝わるような表現に修正した結果、ほぼその目的が達成されたものと考えます。

十勝の農村景観部門では、十勝の雄大な大地にとどまらず、四季おりおりの豊かな自然とその中に暮らす動物たちを交えた一瞬の命の輝きを捉えた作品が高い評価を得ました。

グランプリ作品の「黄金の大地」は蒔き付けを終えじゃがいも畑が夕暮れに黄金色に輝き、豊穡の秋を暗示しているかのようです。準グランプリ「こぼれそうな星たち」は夜の除雪を終えこの季節ならではの満天の星空を表現しています。

農業王国十勝の人部門では、昨年の反省を踏まえ十勝の人々の姿や表情をテーマとしたところ、農作業の喜びの表情や動きが感じられる作品が選ばれています。

グランプリ作品「とうちゃん、後継者はオレだ」は牛舎の牛たちをパトロールする次代の担い手を生き生きと表現し、十勝農業の将来が安泰であるメッセージを発信しています。準グランプリ「草取り」は早出しトウモロコシを覆う不織布のトンネルの中で、懸命に草取りする農家の汗が伝わってきます。

来年度も今年と同じように「十勝の農村景観」「農業王国十勝の人」の2部門での募集になると思います。是非とも今年以上に新たな驚きや感動を受ける景観と、老若男女を問わず動きのある十勝の人々の姿や表情の応募を期待致します。

最後になりましたが、応募された皆様への感謝と、入賞された皆さんへのお祝いを申し上げます。また来年も全国から多数ご応募いただきますようお願い申し上げます。

第4回とから農業・農村フォトコンテスト審査委員会

審査委員長 諸橋 弘平（北海道新聞帯広支社）
審査副委員長 横尾 俊輔（NHK帯広放送局）
折原 徹也（十勝毎日新聞社）
審査委員 樂山 勝則（帯広市）
柴田 勝（十勝観光連盟）
北村 俊貴（北海道信用農業協同組合連合会帯広支所）
古関 悦子（JA十勝女性協議会）
小笠原 愛（JA十勝女性協議会 フレッシュミズ部会）

平成 26 年度第 4 回とちぎ農業・農村フォトコンテスト賞入作品（縮小版）

■十勝の農村景観部門



グランプリ「黄金の大地」梅村 明



準グランプリ「こぼれそうな星たち」栗野 秀明



優秀賞「ご満悦」新村 裕司



優秀賞「春の大地」後藤 孝



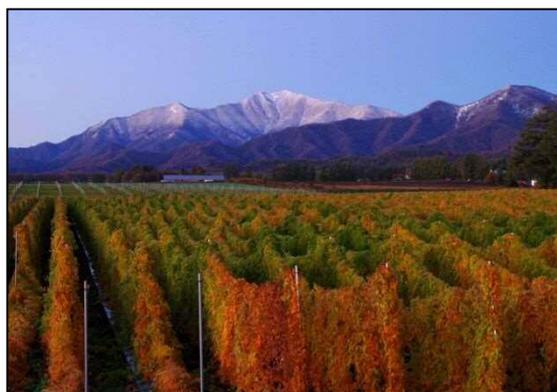
優秀賞「大迫力」秦 学



入選「野鳥もひと休み」斉藤 辰也



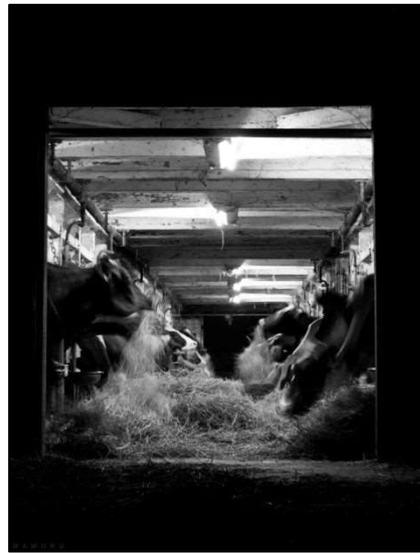
入選「夏の日」三谷 健



入選「カーテンコール」西岡 尚央



入選「洛陽」仁藤 正憲



入選「食事の時間」北川 衛

■農業王国十勝の人部門



グランプリ「とうちゃん、後継者はオレだ！」仁藤 正憲



準グランプリ「草取り」前田 裕



優秀賞「大きな傘」松原 明美



優秀賞「収穫のとき」熊澤 強



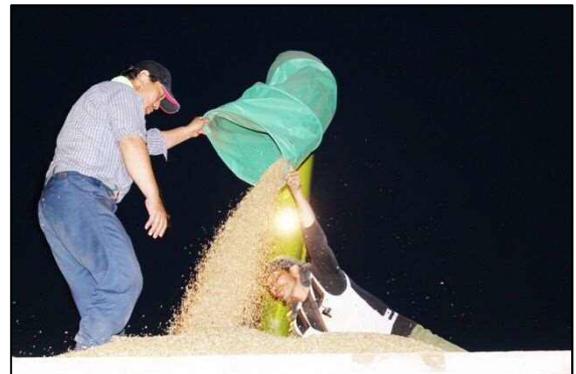
優秀賞「枕掘り」松田 竜弥



入選「水田を守る子ども」塚本 逸彦



入選「雨ニモマケズ」西岡 尚央



入選「黄金の麦 一粒たりとも」高城 静子



入選「生涯現役」新村 裕司



入選「秋の風物詩」吉仲 功